

古きを重んじ、新しきを取り入れた高輪ゲートウェイ駅

18期 N・K

2020年3月14日に山手線の新駅、高輪ゲートウェイ駅が開業しました。1971年4月20日の西日暮里駅以来、約50年ぶりの新駅開業となりました。高輪ゲートウェイ駅は国立競技場も手掛けた、建築家の隈研吾さんが設計を行いました。モチーフは折り紙だそうで、実際に私も行って見たのですが、天井が高い上に柱が少なく窓もガラス張りなのでとても開放感がありました。



駅正面階段下



山手線ホームからの風景

駅全体の設計についてですが、白色の大きな屋根と大きな窓ガラスの他に、床を木目調にし、和の温かみを感じることができます。

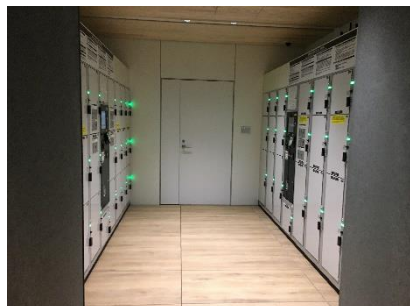
その一方で、「新しき」を取り入れている箇所がたくさんあります。

まずは自動改札機です。従来は交通系電子カードを上からタッチする形ですが、この駅に設置されている新しい自動改札機は、よりタッチしやすいようセンサー(タッチする部分)が斜めに取り付けられています。実際に使ってみました、あまり従来と大きな差はないものの、手をより大きく上げる必要がなくなったので便利さを感じました。わずかな差ですがそこにも気を遣うJRに思わず「さすが！」と言ってしまいそうなほどです。

次に、無人コンビニ「TOUCH TO GO」です。このコンビニの素晴らしい点は、レジで商品をカメラにかざしたりするのではなく、手に取った瞬間に自分がどの商品を取ったかをたくさんカメラで瞬時に判断し、レジに着いたときにはすぐに会計ができるような態勢が整っているということです。今まで私たちが使ってきたコンビニからは想像もつかないものです。しかし、カメラの反応がたまに悪いことや、一度に入店できる人数が限られていることなど、やや問題点もありますが、このアイデアを実現まで持って行ったことはとても素晴らしく思います。

さらに、駅にいる数々のロボット達です。単にロボットと行っても種類は様々で、駅構内を案内する案内ロボットや、新型コロナウイルスの影響で消毒が欠かせない中、消毒ロボッ

トも登場し、ますます駅が活性化してきています。駅にはトイレがあるのはもちろん、ロッカールームや休憩スペース、スターバックスなどもあり、利便性が非常に高い駅でもあります。



ロッカールーム(駅構内)



京浜東北線ホームの電光掲示板

これから品川・高輪地区ではさらに開発が進められていきます。駅前には、様々なイベント施設や、水素自動車が燃料を補給できる水素ステーションもできてきています。駅やその周辺の建物の工事が終わる 2024 年には 1 日約十数万人が利用するとも予想されています。新型コロナウイルスの影響で人が減っていると思いますが、賑わっている「高輪ゲートウェイ駅」を見るのがとても楽しみです。

参考文献

JR 東日本

[https://www.jreast.co.jp/estation/station/info.aspx?StationCd=1750#_ga=2.219034969.171817649.1597835381-250036671.1597835381]